

令和３年度長野市スポーツ推進審議会（第１回）会議録

日 時	令和３年５月２０日（木） 午後２時～４時
会 場	長野市役所第一庁舎５階 庁議室
出席者	委員１０名（欠席委員２名） 事務局１５名
次 第	１ 開 会 ２ あいさつ ３ 諮 問 ４ 自己紹介 ５ 議 事 （１）令和２年度事業実績及び令和３年度事業計画について （２）第三次長野市スポーツ推進計画策定について （３）長野市スポーツ推進市民アンケートの結果について （４）第五次長野市総合計画（前期基本計画）について （５）意見交換 ６ そ の 他 ７ 閉 会
議 事	（議事進行 堀江会長） 議事（１）：令和２年度事業実績及び令和３年度事業計画について 事務局より資料１について説明。以下質疑応答。 <施策１ だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進> 委 員：８頁のスポーツ施設の改修について、千円単位で記載されているが、非常に分かりづらい。１円単位で表記できないか。 事務局：今後、見やすいように工夫していきたい。 委 員：長沼体育館の躯体が使えるということだが、躯体とはどういうものか。 事務局：真^まっ新^{さら}ではなく、柱や鉄骨が使えるということである。 委 員：長沼体育館の復旧はいつ頃になるか。 事務局：令和３年度の事業としているが、状況が分かり次第報告させていただく。 委 員：子供の健康体力の保持向上について、教育の一環の中で、市の公共施設の適正化方針に則り、小学校のプールを長寿命化せずに、小学生の水泳教室については最寄りの総合型スポーツクラブの施設を活用した水泳授業を推進

	していくという方針になっているはずだが、第二次スポーツ推進計画の中ではそのことが触れられていない。現状どうなっているか確認したい。 事務局：第二次推進計画は令和３年度までなので、今後、そうした視点が入ってくると思う。ただし、学校のプール存続については教育委員会で示してくる話なので、そちらを踏まえて計画に盛り込んでいきたい。 委員：総合計画の中で教育委員会も包括した計画になっていないか。 事務局：裾花の教育大綱の中で、そうした方針が示されている。第二次計画の中では正直想定されていなかったもので、現況と課題には載っていないが、環境が変わってきている中で今後５年間で想定されることについて、第三次推進計画に委員の意見を頂戴しながら取り込んでいきたいと考えている。 委員：長電スイミングスクール、SAM 今井校・三輪校で、直近の小学生が水泳授業を専門のコーチングスタッフの元で始めていると聞いている。既に現場は動いているので、推進計画が後追いにならないよう教育委員会と連携して反映してほしい。 <施策２ スポーツを通じた交流の拡大> 委員：先日、ビッグハットで体操の NHK 杯が開催された。計画に掲載されていないが、突然開催されたのか。 事務局：約１か月前に予約が入った。オリンピック代表選手を選考する大会を急遽開催することになり、空いている施設がビッグハットと有明の施設ということで、ビッグハットで開催された。コロナ禍の影響で急遽決まった大会だと聞いている。 委員：そうした施設があって対応が取れることは、長野市としても普段からしっかりした対応が取れているから回ってきたので、こういったことは計画に加えてもいいと感じた。 <u>議事（２）：第三次長野市スポーツ推進計画策定について</u> 事務局より資料２について説明。以下質疑応答。 委員：新たな視点に「インテグリティの推進」や「スポーツの価値の向上」といった数値化しづらい文言が入っているが、今回盛り込んだ背景を教えてください。
--	--

	事務局：スポーツ庁でそうした指針を示しており、今後、スポーツ活動していくうえで、あるいは競技団体ともこうしたスポーツインテグリティの部分は非常に大切な視点と捉えており、計画に取り入れていきたい。 委員：長野市のスポーツで何かあってというのではなく、日本全体の流れでということでしょうか。 事務局：そのとおりである。 会長：自分もスポーツ協会という立場で、長野市スポーツ協会及び各競技団体とやっているが、昨年からインテグリティについて授業の中に指導者を招いてセミナーを開催している。その背景は指導者の問題、指導の仕方、クラブの運営などで長野市に限らずスポーツ界で様々な事例が出ている。そうしたことでスポーツ庁でも声をあげて広く認知してほしいと考えている。インテグリティという言葉は難しいが、現実的に悩まれている方が多く、窓口がないというか行き場所がない状況であるが、そうしたことも開かれていくべきだと思う。これまでスポーツ界ではそういったことをやってこなかったが、今後進めていくべきとの考えが根底にあると思う。 議事（３）：長野市スポーツ推進市民アンケートの結果について 事務局より資料３について説明。以下質疑応答。 委員：ポイントはパーセントとは違うのか。 事務局：ポイントで表記している。30%が35%に上がった場合は、5ポイントという表現をさせていただいている。 議事（４）：第五次長野市総合計画（前期基本計画）について 事務局より資料４について説明。以下質疑応答。 質疑なし 議事（５）：意見交換 会長：これから第三次長野市スポーツ推進計画を策定するにあたり、委員の皆様から一言ずつ、今後、必要となる取組みや考え方など何でも結構なのでご意見を頂きたい。 A委員：行政やスポーツ団体が主催するものは少しずつやり繰りできているが、まだ小さい地域での活動は難しい。第二次計画施策の“地域における自主的な
--	--

	スポーツ活動の促進」が難しかったと理解しているが、スポーツ課や総合型地域スポーツクラブに「こういう風にスポーツをやりたいがどうすればいいか」という相談があったのか知りたい。コロナ禍もすぐには戻らないので、第三次計画でも感染予防に基づいた指針を出していかざるを得ない。各団体の活動の中でコロナ禍で困ったこと、出来たことを教えて欲しい。 事務局：関わったイベントでは選手・スタッフに2週間の健康管理をお願いした上で、当日の検温・消毒の対策を徹底してきた。また、国からの交付金により大規模施設にはサーマルカメラや非接触型体温計を配置して、必要に応じて貸出しを行った。 また、地域コミュニティ活動について、これまでどおり人を集めることはできず人数制限をしている。中止になっているものも多いが、時期をずらしたり状況を見ながらコミュニティの場を提供していきたい。 B委員：スケート人口が減少している。せっかくエムウェーブがあるので無料開放日を増やしてスケート人口の増加に繋げてほしい。 C委員：ソフトテニスをやっているがクラブ会員の高齢化が進み、免許証返上などでクラブに行く足も無くなり会員が減少している。新聞に募集案内を載せても見てもらえないが、SNSでクラブ紹介したところ、若い人が参加してくれた。そういう媒体を使って参加を募るのもいいと考えている。 D委員：バスケットボールに携わっており、高校生から高齢者まで参加できる生涯スポーツとして活動している。コロナ禍の影響で県内の女子チームが23チームから7チームになってしまい、ママさんだと子供を連れて行かないといけないが、協会のガイドラインで選手とスタッフ以外は会場に入れない規定があり、子供を預けられず活動参加もできない現状がある。これは自分の周りでも大きい変化である。そこを何とか続けていきたいと考えているが、長野市の社会体育館のガイドラインも知らない人が多く、コロナ禍で使えるのか使えないのかわかりづらい。HPで窓口を作ってもらい、使用のガイドラインを作成しつつスポーツを広げていけたらいい。また、10年前にルールが改正されてフリースローなどコートが変わったが、未だに社会体育館は変わっておらず、改善してもらえたら有難い。 E委員：長野市民はまわりの地方都市と比べて健康寿命の増進意識が高い。これはいろいろなデータで検証されている。その健康寿命の増進を推進する体育施設ランキングは全国3位であり、市内に43施設ある。1位は世田谷区、2位は練馬区である。そうした恵まれた環境で、いかに市民がスポーツに関わっていくよう仕向けていくかが、今回の推進計画の一番の骨子になっていく気
--	---

がする。もう 1 点は、地域のスポーツ振興または文化芸術がそのまま都市のブランディングになっていく時代であり、選ばれる都市のラベリングになっていくと考えている。事例として秋田県の能代市はバスケット王国として完全にブランディングが定着している。長野県をみるとスキー・スケートが全国 1 位であり、最近ではマラソン大国、バレーボール王国と言われている。全国屈指の強豪校があり、そこを軸にどんどん底辺が拡大しており、基礎はしっかりできている。いかに市民とスポーツを身近なものにしていくかということになると、例えば表参道スクエアや大通りのポケットパークにバスケット ^{スリーバイスリー} 3 x 3 の施設をポンと置いてみるのもスポーツが身近なものになるアイテムに成り得ると思う。街中で若者が賑わいを創生していく要素としてスポーツはすごく有効な手段である。スポーツを通じたまちづくりに対して次の計画でどのように具体化していくか楽しみにしている。

F 委員：普段、運動指導しているが、コロナ禍により web 上のレッスンを進めてきた。運動する人を増やすには、簡単にできる、空いた時間にできる運動を動画配信してもよいと思う。

G 委員：学校現場では接触する種目は後回しにするなど、工夫して体育授業を行っている。生徒とスポーツとの繋がりが切れないことを大事にしたいと考えている。どこの中学校でも部活動をどうするか苦慮していると聞いている。計画では「スポーツ参画人口の拡大」に視点を当てているが、子供達がスポーツや運動に親しむ意識は二極化されていると言われている。運動に一生懸命な子供がいれば触れる機会がない子供もあり、学校でも運動嫌いにさせないよう工夫していくべきと考えている。計画でも子供を巻き込む視点を盛り込んでほしい。市民がスポーツに触れ合う機会を増やしていくことに視点を当てると、スポーツ参画人口の拡大が見えてくると思う。

副会長：市内のスポーツ教室は女性の参加者が多い。家にいる男性をどう引っ張り出すかがひとつの課題だ。アンケートを見ると全国比率でウォーキングのポイントが低い、自然に恵まれているのに車の往来が多いなどいい場所がないのかもしれない。公園の活用にはスポーツを絡められないかと考えており、長野市の公園はペットが入れないが、そこを柔軟に考えてもらおうと、ウォーキング実施率があがると思う。去年はほとんどのスポーツイベントが中止であったが、スポーツ推進委員として地域にスポーツを広げていきたい。

会 長：令和 28 年に長野市で国民体育大会が開催されるが、名称も国民スポーツ大会に変わる。世の中で体育からスポーツに移行されているが、簡単にいうと、いつでもどこでも気軽にする、見る、支えるということを市民が身近に感じてやっていくことがスポーツである。健康増進、高齢化に向けた部分、少子

	化による子供の健康の問題などがスポーツというひとつの括りとなり、最後 はまちづくりまで含めた経済にも影響する広い視点が増えてきたと感じて いる。ポイントを3点挙げると、1点目が機会の醸成であり、スポーツをす る機会、見る機会、支える機会をいかに広めていくか、2点目が情報発信を どうするか、3点目が施設を有効活用することで市民がスポーツに触れる機 会が増えると思う。こうした視点を審議会で議論して盛り込んでいければと 考えている。
以上	